

台風11号によるフェーン現象発生のおそれあり

登熟期の高温により
胴割粒等の発生が
懸念されます。

長岡農業普及指導センター

稲作緊急情報

電話：0258-38-2554

E-mail:ngt111440@pref.niigata.lg.jp

- 今年はお穂期後が高温となり、さらに10月初めまでの高温予想(9月1日発表1か月予報)のため、基部未熟粒・胴割粒等の発生が懸念される。
- 特に中生品種は、早生品種以上に登熟初期(お穂後10日間)の最高気温が高く推移したため、胴割粒の発生が懸念され、今後の天候によってさらに発生拡大が推測される。

胴割粒を出さないためには、早めの収穫、慎重な乾燥作業を

空気が極度に乾燥した状態のとき、籾水分が低く(22%未満)なっていると胴割粒が急増する。収穫適期直前の場合は、以下の対応を検討する。

(1) 早期の収穫を検討する

- ・ 収穫開始のめやすを黄化籾の割合80%程度※とし、通常(黄化籾85~90%)よりも早めの収穫を検討する。

※ 上位3~4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗籾にまだ青みが残っている状態

(2) 胴割粒の発生を防ぐ乾燥方法とする

- ・ 乾燥機張込み時の籾水分が低い場合は、日中は常温の通風乾燥とする。
- ・ 点火は夜間に気温が下がってから行い、送風温度を低めに設定(毎時乾減速度0.5%以下)して乾燥する。
- ・ 二段乾燥機能や休止乾燥機能を活用する。